

大田区立つばさホーム前の浦

令和6年度(2024年度)事業報告

1, 運営方針

- (1) 利用者の権利と尊厳を守り、個性と能力に応じた支援の実践
- (2) 利用者個々の状況に即したサービスの提供と効果的な事業運営
- (3) 関係機関や地域社会との連携により、社会的な自立を目指した運営
- (4) 情報公開、法令遵守により、信頼度と透明性のある事業運営

2, 職員等配置

- ・ 正規職員 27 名
- ・ 正規職員以外 10 名 (非常勤職員 10 名) 合計 37 名

3, 利用者受入等 *日数・%等は前年同期比

	定員	開所日数	延べ利用者数	平均利用者数	稼働率		利用率	
共同生活援助	11 名	365 日	2,581 名	7.1 名	64.3 %	-9.8%	93.1%	+5.4%
短期入所事業	11 名	365 日	3,129 名	8.6 名	78.0 %	-6.4%		

※平均利用者数＝延べ利用者数÷開所日数 (小数点第2位以下切り上げ)

※稼働率＝延べ利用者数÷(定員×開所日数)

※共同生活援助利用率＝延べ利用者数÷(在籍数7.6名×開所日数)

*新規利用者2名 (1/15、3/1 付け、いずれもグループホーム)

*退所者3名うち地域移行者2名 (7/31、9/14 付け：グループホーム) その他1名 (1/14 付け：自宅へ戻る)

4, 重点目標に対する取り組み状況

第5次経営改革プラン項目				回数・日付	人数
I 面的支援体制整備の推進					
1	地域生活支援事業および重層的支援の強化	内容	(1) 共同生活援助利用者の円滑な地域生活移行支援実施。 ⇒地域グループホームへの移行 ⇒利用者通院等同行 ⇒移行後アフターフォローの実施 (2) 相談支援事業所、日中支援事業所、各関係機関との連携強化。 ⇒大田区障害福祉課、管轄地域福祉課と連携した支援体制を推進し、短期入所緊急利用受入れを行った。 ⇒日中支援事業所、相談支援事業所等との関係者会議を実施。 (3) 障害特性理解及び本人理解 (日中支援事業所等での活動見学を通し支援方法引継) ⇒短期入所新規契約利用者 (初回) の日中活動訪問見学、および支援方法の引継ぎ	7月・9月 17回 2回 37回 36回 10回	計2名 計17名 2名 計37名 計45名 16名

			⇒短期入所利用者の受入担当化…支援方法の共有、アセスメントを深める取り組みを実施。	9月～	全支援員
第5次経営改革プラン項目				回数・日付	人数
Ⅱ 地域に根ざした公益的取り組み検討と事業化					
2	地域公益活動の強化および地域資源としての役割理解促進	内容	(1)施設まつり実施および地域まつり・行事等への参画。 ⇒・いつつのわ幸陽祭開催における運営委員会の実施。 ・いつつのわ幸陽祭の実施。(のぞみ園と協働) ⇒おおた福祉ネット・糺谷羽田エリア会議の参加。 ⇒フードパントリーへの会場貸し出し。 (2)業務継続計画(BCP)の取り組み推進。(地域防災・感染症対策の再検証含む) ⇒法人合同BCP訓練の参加。 ⇒大森消防署より、令和2年度・3年度延べ57名参加した救命救急講習に関して、救命医療週間への貢献と感謝状の授与。	9/18・12/11 11/9 4回 12回 4月・9月 9月	延べ56名 900人 4名 2名
第5次経営改革プラン項目				回数・日付	人数
Ⅳ 福祉人材の確保・育成・定着					
3	利用(当事)者中心のサービス提供に励む人材育成の推進およびチーム支援の強化	内容	(1)多様な障害特性に応じた支援の質の向上を図る。(研修体系の構築およびOJTの効果的实施) ⇒新任職員OJTの実施(トレーナーによる振り返り)。 ⇒財務・サービス・人材・組織の4事象において、各スタッフ層を交えた業務進捗管理を図った。 ⇒GH利用者ロードマップを作成し、支援方法やプログラム内容の検討、質の向上を図った。 ⇒障害特性別にテーマ勉強会を支援員全員で実施。プレゼン場面を会議等にて設けるとともに、次年度以降のOJT資料として整備した。 ⇒身体拘束適正化ワークとして、現場で感じたグレーゾーン支援について意見交換実施。 (2)現場事例から学び合う風土醸成の推進。(スマイル・にやりほっと事例の共有活性化) ⇒非常勤職員も交え、ヒヤリ・にやりほ	21回 運営会議 12回 支援会議 12回 ケア会議 12回 1～2月 3月 8月	計8名 計84名 計106名 計86名 23名 15名 全職員

			つと事例を挙げ合う取り組みと、その効果の確認。(職員会議で共有) (3) 現状業務内容に応じたマニュアル改訂強化。 ⇒誤薬防止活動の取り組みとして、服薬マニュアルの改訂。 ⇒新任 OJT マニュアルの更新。 (4) 活動プログラムに応じたボランティア・福祉人材受入の検討・実施。 ⇒グループホーム活動の一環として、ファゴット演奏者の受入れを検討した。	8 月、2 月 4 月 2 月～3 月	
第 5 次経営改革プラン項目 V 社会の動向を踏まえた持続可能な経営基盤づくり				回数・日付	人数
4	安定的な事業所運営	内容	(1) 法令遵守の徹底 ⇒職員会議、およびサイボウズアプリを活用し職員に法人諸規定等を周知し、会議準備に活用した。 (2) ICT 化への取り組み ⇒リモート会議の実施、およびシフト勤務の働き方に対応できるよう、通信機器導入と環境整備を開始。 (3) 利用率向上を目指した事業所運営 ⇒短期入所利用者のアセスメント見直し。 ⇒全職員参加による事業 SWOT 分析（事業所の現状を把握し効果的な運営に繋げるためのワーク）を実施し、利用者支援およびサービス提供と事業推進との連動を図った。 ※地域移行（地域生活支援）のロードマップ整理に活用する。 (4) 感染症対策委員会の設置 ⇒委員会・研修等の実施。 ・感染症対策指針の確認 ・嘔吐物処理の動画視聴 ・嘔吐物処理研修 ・手洗い研修	通年 9 月から 1 月～3 月 1 月～2 月 7 月 11 月 12 月 3 月	全職員 全職員 10 名 全職員 13 名 10 名 15 名 15 名

5. 年間行事実績

4月	自治会(オリエンテーション)、余暇・特別活動(花見)、防災訓練	10 月	自治会、防災訓練
5月	自治会(自治会長選挙)、防災訓練	11 月	自治会、いつつのわ幸陽祭、防災訓練
6月	自治会(外出行事の行き先検討、カビ防止キャンペーン)、防災訓練	12 月	自治会、余暇・特別活動(クリスマス会)、防災訓練
7月	自治会(卒業利用者証書授与、水分補給キャンペーン)、防災訓練	1月	自治会、余暇・特別活動(グループホーム外出・蒲田)、防災訓練

8月	自治会、(外出行事事前学習、水分補給キャンペーン)、防災訓練	2月	自治会、余暇・特別活動(グループホーム外出・津久井浜いちご狩り)、防災訓練
9月	自治会、余暇・特別活動(グループホーム外出:品川水族館)、防災訓練	3月	自治会(まとめ会)、防災訓練

6. 福祉人材の確保・育成・定着

	実施項目	具体的取組の内容	回数・日付	人数
1	OJT・職場内研修	(1) サービス提供ガイドライン、各種業務標準を活用して新キャリアパスに応じた OJT の実施 ⇒共通確認認識項目として、法人諸規定、サービスガイドラインに基づいた新任 OJT を実施。 ⇒法人内事例検討会等への参加。 (2) 職場内研修の計画実施 ① サービス管理、障害特性・支援技術等 ⇒腰痛予防のためのボディメカニクス講座 ② 虐待防止・権利擁護関連 ③ 危機管理・防災・応急救護等 ⇒普通救命講習 ④ 感染症対策・保健衛生等 ⇒嘔吐物処理研修、手洗い研修	通年 2 回 9 月、11 月 12 月、2 月 12 月、1 月 12 月、3 月	8 名 2 名 18 名 全職員 5 名 15 名
2	外部研修	(1) 職層・職員個別ニーズに合わせた受講計画と実施(オンライン研修の活用) ① 障がい特性 1 講座 ② リスクマネジメント ③ 利用者支援・技法 1 講座 ④ 福祉サービス・制度 5 講座 ⑤ 経営・運営 6 講座 ⑥ その他 4 講座	1 回 0 回 1 回 7 回 6 回 4 回	1 名 1 名 11 名 8 名 17 名

7. その他特記事項

特になし。

以上